

平成 19 年（2007 年）の焼岳の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○ 2007 年の活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図 1、図 2、図 3）

10月30日に焼岳の噴煙が従来よりやや多いとの連絡があり、翌31日に上空からの観測（国土交通省北陸地方整備局の協力による）を実施しましたが、焼岳の噴気量やその噴出状況、噴気孔の位置などに特段の変化は認められず、全体として従来と同様な噴気活動が続いていました。

12月18日未明に焼岳近くの住民がドーンという音を聞くとともに、国土交通省神通川水系砂防事務所のライブカメラで赤い光を見たとの連絡がありましたが、焼岳付近の地震観測点には、当該時刻に噴火等に伴うと思われる震動記録はなく、翌19日に実施した上空からの観測（国土交通省北陸地方整備局の協力による）でも、噴火等の跡は認められず、噴気量にも特段の変化はありませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 4）

焼岳付近を震源とする地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12月1日 10時20分	噴火予報（平常）	火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注）平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。



図 1 焼岳 10 月 31 日、12 月 19 日に上空から撮影した噴気孔の位置

この資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学および独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

焼岳



(2007 年 10 月 31 日、南側上空から撮影)



(2007 年 10 月 31 日、南西上空から撮影)



(2003 年 10 月 7 日、北峰東側尾根から撮影)



(2007 年 10 月 31 日、東側上空から撮影)

図 2 焼岳 山頂北峰の噴気の状態
番号は同じ噴気に対応しています。



(2007 年 10 月 31 日、南西上空から撮影)



(2007 年 12 月 19 日、南西上空から撮影)

図 3 焼岳 南西斜面の噴気（岩坪谷噴気孔）の状況

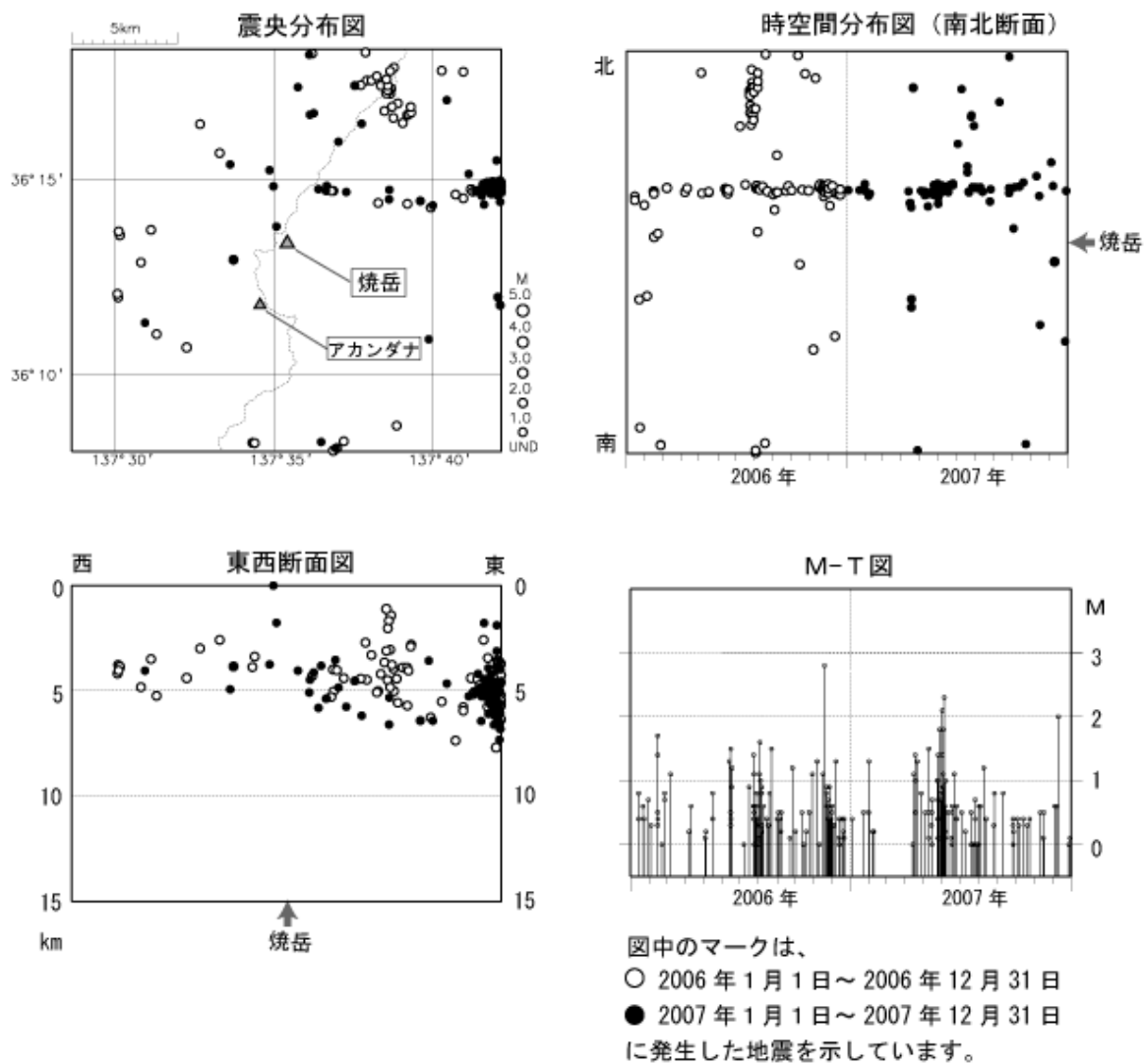


図 4 焼岳 山体及びその周辺の地震活動（2006 年 1 月 1 日～2007 年 12 月 31 日）
 M（マグニチュード）は地震の規模を表します。図中の震源要素は一部暫定値で、後日変更することがあります。